



第 1 9 号

(毎月1日1回発行)

昭和29年4月1日発行

昭和28年4月17日

第3種郵便物認可

発行所 曙 書 房

定価 一部 20円

鬼山絢策氏の「変態讀美論」は一部に牽強附会の個所もなきにしもあらずだが、本誌の読者諸氏にとつては、双手を挙げて賛意を表される向きが多かつた事と思う。アブの世界はたしかに単純から複雑への変化であり、マンネリズムから高等戦術への進歩である。私は「変態性慾必ずしも卑下するに当らない」という鬼山氏の説には賛成であるが、然りといつて、現下の如きあらゆる軟派雑誌が、アブ(特に女性の縛り)を挿入しなければ、時代遅れであるといった傾向には、納得ゆきかねる。此の種雑誌の氾濫は、当局に取締りの口実を与えるばかりでなく、ア

読者論壇

アブの世界

竹淵 猛

の代りにアブが一枚加つたような恰好である。だからといつて、私はアブを排斥するのではない。私が真面目なアブ礼讃者であるだけに、健全なアブの世界が、心なき人たちの手によ

ブに執着する私達にとつても、倦怠を感じさせるに寄与するばかりである。

日本が戦争の惨禍に見舞われる一昔以前、エログロイットという言葉が流行した事があつたが、現在ではイット

つて、泥土に塗れさせることを憂うるのである。

人間の性生活にとつて、特效薬であり高貴薬であるべきアブノーマル・テクニクが、風邪薬か頓服の如く手軽に使用される所に、危険と誤解が存在する。そして私は、高貴薬が変じて、毒薬の烙印を押される事を恐れる。アブの世界はあくまで特殊の世界であり、選ばれた一部の人達のエンジョイすべきパラダイスである。従つてこれを他の門外漢が主観的な尺度をもつて揣摩臆測するといふことは、当らないという説は正しい。

アブノーマル・マニアやが、第三者

には勿論のこと、相手方に対しても迷惑を掛けたい以上は、よしその行為が第三者から見ても、異常に映つたとしても、道徳的に何ら指弾されることはなという事は、鬼山氏も極力力説せられた所であるが、この第三者、即ち社会的にマイナスの点があるかどうかというところが問題であつて、例えば、変態讀美論、第十二章、同性愛のところ、生殖の意義を失う云々で、人倫に悖ることによる道徳的な面を論じているが、現在の如き産児制限の時代では、同性愛が奨励されないにしても放任されている恰好だが(墮胎罪があつても実際に発動されていない如く)若し、假りに戦時中の如く「産めよ殖やせよ」という時代であつたらどうであろう。忽ち逮捕され陽の目を見せられなくされる事は必至である。

戦争は如何なる国でも、正義の旗幟の下に戦われる。私は敢て鬼山氏の讀美論に反対するわけではないが、その堂々たる論説が、徒らに砂上の樓閣たることを恐れ、拙き一文を草して批判を乞ふ次第である。

裸体と腰巻きと

ズロースと

みつまる・さんかは

偶然なことより最近御誌（三月号）

を拝見いたしました。充実した編集内容と、異色ある写真集には感心いたしました。ともかく数ある傾向誌の中でこうした写真に対する態度は、やつつけ式なものが多く、私達好事家の期待が満たされません。

それに対して御誌の写真は良心的で立派なものだと存じます。モデル諸嬢の名を明記する所など、私の感じから云えば、実にマニヤ諸氏の心理の機微をうがった手段です。もつとも此の意見は多分に獨断的なものだと存じますが……。

初、写真に対する私の疑問を呈出致したく存じます。三月号の写真の中、海老賣め、股間縛りが私の最も好んだ一つです。何故かと申しますと、先ず

全裸と云う点があげられましょう。全

裸の美しき女体に対する縛りなぞはマニヤ達の最高の至楽だと思います。然しそうした欲望も公刊誌に対しては限界があり、此の写真なぞそうした限度の限界だと思ひます。あの後ろ向きのポーズの良さと、光線の具合かとても全身が白く撮れていたこと、それ等の条件にマッチして、白い裸体に簡潔に、しかも納得させるだけの迫力を伴つて掛けられた細紐（綱でなかつたので猶良かつた）の、白と黒のコントラストの見事さは立派なものでした。バックが少々気になります……。

こうして申し上げました意見の中、賢明なる編集者諸兄は、私の好みを察せられたと思いますが、全裸であること、でない場合はなるべく露わな曲線

を見せて頂きたいと云う点にあります然し公刊誌の都合上、正面の場合なぞ困られることでしょうか、そうした場合、あゝした時代的な腰巻を止めて、パンティとかズロースにして頂いたらどうでしょうか。腰巻は、あの浮世絵のアブナ絵的なところ、いわば閨房的でも申しましょうか、然し若い世代は腰巻きに郷愁に似た気持は抱いてはいませんが、それよりもズロースやパンティに、より以上の興味を抱いているのではないのでしょうか？

腰巻き、それは開放的ではあるが、じめじめとした大時代な四疊半調の日本趣味、そこからは明るさ、健康さと云うのも変ですが）と云うものが求められません。特に黒白写真の場合、実際は白い肌にまつわる緋色の妖しいまでのなまめかしさ、と云う色彩的な効果が素晴らしい美しさとなつて興奮をそゝるでしょうが、写真となつたらそうした点は実にじめじめなものでバサバサとして汚れた黒い布が腰間をおろうのみで折角の美しい露わな曲線をタシノウすべくありません。古川裕子

さんは、マニヤ達には高度の空想性が要求されると申されていました。そうした点は私も共鳴した一人ですが文章の場合なぞ、実に奔放なまでの空想をあえてする私も、写真となるとなんと申しまでも、直接視覚にうつたえるので、どうしてもリアルになります。写真そのものの性質がリアルであるせいもあるでしょう。

だから写真の場合は腰巻はいけません。いちぢるしく読者の興味を減殺するでしょう。そして腰巻を僅かにくくり上げたり、たくしたりして撮つた写真はなんとなく作爲が目立つて不自然な感じがします。と云つても腰間をおろす必要上（公刊誌の手前）腰巻を使用されるのでしようが、読者は満足せず、変なジレンマに落込まれることでしょう。

私は、こうした公開写真の発表の限界が、どの程度かよく知りませんが、恥毛が映り、生殖器の露出を禁止する程度ならパンティか、ズロースを使用して頂きたいのです。

パンティ、ズロース。それは腰巻に

較べると護身的ではありませんが、それだけにそれを剥ぎ、脱がすと云う点では一層征服欲がそよられるものではないでしょうか。それに明るく、近代的なセンスがたゞよいです。大腿にビツチリと喰いこむゴム、ふくよかに盛り上る腰部の蠱惑的な肉体を、露わにまでもり上らせるでしょう。僅かに股間をおう三寸程のパンティの布、これなら若し写真の限界が前記の程度なら、どんなポーズでも許容されるのではないでしようか。

総体的に、今の若い世

代は洋装というものゝ中に生活しているだけに、洋服と云うものに、身近かな親近感を抱いております。というより洋服そのものが常識になつてゐるのです。

ふと親しい娘達の和服を見た時、目



新らしい美しさを感じはしますが、それも幾代も続いた私達の日本人としての郷愁で、そこに昔、束縛と拘束の生活を送った女性達の悲しみを見、又いつかは滅びてしまふ、と申しましたら異論があらましようが、いつか装飾と

形式化して滅びてしまふものゝ哀れを感じるのみで、近代のセンスは感じられません。若い世代と次元が違ふのです。と申しましても着物を一概に排斥してしまう積りはありません。たゞ写真の場合に就いて語つてゐるのですから……。

三月号の例にしましても数多い作品の(文章)中で着物(と申しました必然的に腰巻きまで連想しますが)を扱つた文章は、三篇で他はいずれも洋装となつています。だのに写真の方は必ずと云つても良い程に腰巻き

なのです。これは御誌のみでなく他の同じ傾向誌でも同様の様に思います私は寡聞にして余り獵涉したことはありませんが、どうもそのように思われ公刊誌でパンティやブロースの写真を見ません。一つ出来るように努力して

頂きたいのです。

例えば三月号の写真を例にとつて見ましても、坂口利子さんの海老縛り二葉では、緊縛の美を充分に出し、こう云う風に女体を縛つて虐めたら……と云うマニヤの気持をそよりますが、やつぱり腰巻きが折角の興味をそこないます。これをブローに代えて見たらどうでしようか。

上の写真なら、真白なブロースを半分、臀の下まで脱がしたら、丁度前部をおろつて臀部は全部露出され、しかも脱がすと云う喜びが、読者の胸に湧きます。下の写真にしても同様、仰向きにされた女体が、殊に海老縛りと云う緊縛のポーズでは、どの様に女性の羞恥心を掻き立て、あられもなく女体の秘密を征服者の視線に曝して、征服者を愉悦の絶頂に置きますが、この場合も臀部の美しい曲線をかなり出しています。薄暗いバックと、腰巻の黒色の為明瞭を欠き、それにたくし上げられになつた大腿部の部分は、円みを帯びて画く臀部の肉線を中断して残念です。

これを先程のように、ズロースかパ
ンティを使用しますと、臀部は見事に
露出されますし、大腿部の気になる部
分も最少限度一、三寸で済むでしょう
凄艶の部も同じ、海老縛りにされた
坂口さんの正面からのポーズは良く撮
れています。でも惜しいのは黒いパツ
クと、腰巻の黒色が一緒になつてしま
つて折角のカンジンの部分が不鮮明に
なつてしまいました。これが股間の狭
い、それにくりの広いパンティをはい

ていたら………と惜しまれてなりま
せん。そしたらパツクが暗いだけに真
白なパンティと肉体が浮び上つて、し
かも露わな肉体が惜しげもなく読者の
視線に呈され、裸にされた………と、若
しくはそれに近い姿になり、飽くなき
欲求が幾分でも満たせるでしょう。
満されない読者達の悲しい願望、そ
うして得られない対象を求めて悶えて
いる読者達の心の友として御誌が存在
するなら、そうした読者達の悩みを幾

分でも軽くする為に、既成の概念の中
に胡坐をかき、観念的な写真の発表で
売らん哉と時流に便乗する傾向誌の中
で、御誌のみは毅然として読者達の又
とない心の慰安誌となつて頂きたいの
です。
なお、パンティやズロースに限つた
ことでなく御誌の考案になる(?)責
任をでも作つて、如何にすれば女体の
美しさ、悲しさ、哀れさを如実に写真
に出されるかと云う点に注目して頂き

度いと存じております。
いろいろと思ひながらも筆は意のま
ゝに進みませう、散文調になつてまし
いましたかどうか了として頂きたく、
御誌の躍進を期待して筆を置きます。
○読者案内欄に掲載申込み多数を頂き
ましたが、本号に掲載の分迄にて一応
打ち切り、その後受付の分は切手原稿返
送申し上げました故、悪しからず御諒
承おき下さいませ。(家原文子)

会友 通信



近頃何事によらず逆コース時代で、
出版物に対する弾圧も頗るうるさくな
りつゝある昨今、貴社編集スタッフの
勇氣に満腔の敬意を表して居ります。
こいねがわくば貴誌が弾圧にもめげず
末長く続けられんことを私共斯道の同
好者として衷心より願つて居ります。
さてKK通信が読者相互間の連絡的

機関として発展した事は大変有難いこ
とだと思つて居ります。大体に於て本
誌の如きは特異な趣味を持った読者を
対象としているのですから、お互いに
同好の士を見出す為に通信欄は誠に有
意義であると思います。小生にしても
女性の切腹等という妙な事柄に異常な
興味を有するなどということは何とな

く他言することもはぶかれて、まし
て本誌上に斯くも反響を呼び此のテー
マで次々と稿が寄せられようとは夢に
も思わぬところでして、同好の士の多
きを発見し非常に力強く感じている次
第です。関東地方(主として在東京)
の読者の結合を計り同好の士の親睦を
深めたいと思いますが、若し差支えな
ければ出来るだけの御支援を賜り度い
と思ひます。東京では、伊藤晴雨翁そ
の他二、三の同好の士ともつき合つて
居り、目下の具体案としては懇談会、
撮影会、及び相互の趣味に依る結びつ

き等を大体関東地方の読者間に於て促
進致したいと考えて居ります。小生今
迄他の道楽の面にて種々なグループを
結成した経験がありますので、そうし
た世話人として先ず資格はあると自惚
れて居りますが………どうか宜敷く御願
い申し上げます。
(東京都・H・R・S生)
○ 大変御無沙汰致しました。沼田でござ
います。編集部の皆様方も御元気の
御事とお察し致します。私、実は今年
になつて今迄のお店を辞めまして、昨

今ある方の御世話になつて居り、今迄の悲惨な辛い生活から逃れ一歩々々とな新生活に踏み込んで居ります。それにつきまして何や彼やと用が御座いましたので、お約束の原稿も途中で置き誠に御迷惑をお掛けして相済みません。どうか悪しからずお許し下さいませ。本当にお約束し、私も発表したい事が山程あるのを一部分ずつですが書きかけてあるのです。十二月号に御発表下さつて以来私も元氣百倍、二月号にも「人間燈台」を御発表下さいまして有難うございました。益々氣を入れて書き度いと存じて居ります。現在書きかけのものの繰り次第御送り致しますから宜敷く御願ひ致します(沼田扶二世)

○ 小生奇クを愛読している男性マゾです。日頃貴誌に感謝していると共に実に希望が御座います。男が女を責めるだけでなく、女が女を、更に女が男を責める場面がもつと欲しいです。近頃は夫分その点で編集の御苦心も見えますが、もつと男性マゾの心理をつかんだものと思う次第です。刃物を使用

したり、血を流したりするような残酷な方法場面は嫌いです。やはり精神的な屈辱感を女性に与えられつゝ絶対優勢に立つた美しい女の足下に縛しめられ、ゴム轡に喘ぎ乍ら懸命にそれを外そうとする、そのさまを女が冷やかに眺めつゝ、轡をグツと締めつける、といったようなものです。読物も夫婦間の遊戯の御披露や、いたすらに理論的なものばかりでは物足りない、目的のある責めであり、責めのための責めでない読物がほしいです。即ち読者はマゾでありサドであつても、作中人物は必ずしも病的心理者である必要はないと思います。その意味で二月号の岡田咲子さんの作品は大変面白く読みました。口絵や写真は夫分進歩していますがまだ隔靴搔痒の感なきに非ずで、小生は兇暴な男が女を責める図よりもその逆、或は女同志の場面で責め手のけわしい表情、勝ちほこつた冷笑等でもつと緊迫感の出たものを欲して止みません。

○ (大阪・夢味生)

な満足と僅か許りの空虚さとも味つて居る者です。性向は正直に申上げて、自分にもマゾなのがサドなのが判断に苦しみます。女性の被虐写真には激しい魅力を感じますし、一方自分の責められる姿を想像することも楽しい事の一つです。尤も同性の写真、ソドミア等に全く興味のもてない点に、案外私の本性がひそんでいるだろうと思ひます。奇クの口絵及び内容に関しては、編集者の方々の並々ならぬ御苦勞が察せられますが、一つの傾向を持ち始めた様に思ひます。型にはまるということとは読者が固定したという意味では喜ぶべきことでしょうか、不満足な面も多々出てくると思ひます。古川裕子さん始め皆様の告白物は夫々体験を基として居られるからでしょう。殆ど欠点を知りませんが、それらが一冊の奇クを構成する時、例えば女性のサディストの執筆者が居ない事、多くの文中のフレイに於てサド対マゾのが少く、むしろ凌辱ということを主体としている事などは、私を含めて一部の読者には致命的ではないでしょうか、女性サデ

イストの出現とサド対マゾのプレイを内容とする記事を強くお願い致します。次に私のようにパートナーもなし、経験もない者にとつては、月々の瀧麗子さんの図解は非常に楽しいものゝ一つです。今後とも獨得の方法を図解して下さい。今後も願ひすると共に、テクニツクの講座のようなものを開いては如何でしょうか。先日東京の朝日新聞にテクニツク迄教える、と強く非難した論文が載つておりましたが、内に内攻してしまうよりは、外に発散してしまうほうが、どれ程弊害が少いかを見れば、テクニツクの講座等を一概に悪いと決めるのもどうかと思ひます。その意味で吾妻氏のさるるつわ(四月号)には双手を上げて賛成致します。今一つ御誌に談話欄を設けて執筆諸先生と読者との質疑応答が叶うように計らつて戴ければ有難いのですが、こんなお考えはありませんでしょうか。

○ (静岡・河本味留緒)

突然ですがお伺ひ致します。私当年四十五才の男ですが、昨年春以来御

誌を愛読致して居ります。私は早く両親を失い養父に育てられました。十才の時その養父の為五年百円のかたに妾の家へ男であり乍ら小間使いにやられました。その妾というのが非常な変態で、私は行つた日から奴隷扱いにされました。着物は着せてくれず女の

じゆばんとお腰をさせ、自分の小水をのませたり、私を玩具にして喜んで居り、外出する時は逃げるのを防ぐ為に柱に手足を縛りつけて置くといった調子です。勿論私の外出は一切許してくれません。云いつけに背くとお腰一つにして自由をうばい、煙管でせつかん

します。幼少からそういう生活をさせられたからか、私も自然マゾになり、その妾が死んでその家を出てからも、赤いお腰が離せず、縛られたいと思う気持が近頃益々ひどくなつて来ましたもう一度昔の様に奴隷になつてみたくてたまりません。どなたか女性の方で

奴隷の要る方は居られないでしょうか、どんな辛棒でも致します。但し赤い腰巻を着せて下さる事を条件と致します。誠に我れ乍ら愛想が盡きますが、何とも仕様がありません。どうぞ宜敷く。
(大阪・伊毛田生)

☆ さ さ や か な 言 い 分 ☆

先日東京の朝日新聞に、出版物取締

は言うまでもない。

りに関し、責めをも含めて「……これらは、読みまたは見る人の低劣な性感情、あるいは変質的な異常心理を刺激するのみであつて、そこからは何一つ美しさも、ゆかしさも見出すことばできない……」と当局の某氏がキメツケて発表されているのを読んだ。

医学もすい分発達し、人間の外形を改造することも出来るそうだが、造形神でない限り、持つて生れた性向を矯正することは望めまい。

数人の人がある一つのものを観て、美と感じ、醜と映するのは各人それぞれ

倒錯せる性向の持主が自身その性異常を恥じ、世間に秘して、ひとり悶々の情になやむといったこの種性向者が

美と感じ、醜と映するのは各人それぞれ

現在世の中にどれ程居るかは知らない

律する訳には行かないと思う。観者自身の性向に迎合されるか否かに依つて当然、そこに幾許かの開きの生ずるの

が、少からぬ数に上ることは事実であろう。このどうにもならぬ不運な運命を担つて世に出ている者に、ささやかな慰めともなり、ともすれば暗くなり勝ちな人生に一燈を供してくれるのが

、奇譚クラブであると思う。三月号が忌避されたと聞くが、当局は我々倒錯性性向者よりこのささやかな一燈をすら奪い去ろうというのか、貧しき私達には人間として当を得た読物も与えられず、徒らに内攻せる心の苦しさにもがき続けさすのか、と云いたくなる。

一プラス一は二、になる道理は解るが自分が美しいと思うものを、他から醜いものとして押しつけられても納得できない。

勿論公刊誌である以上、広く店頭に飾られ老若男女を問わず、其処に佇む者の目に觸れるのは当然であるが、それに依つて、社会に悪影響を及ぼすとは考えられない。読んだ記事に刺激されて悪の道に走つた、という少年があ

るそうだが、果してそのみが原因だつたのだろうか、現代の社会情勢で、不良掛つた要素の持主が、その機会に遭遇した場合、この種のを全然読んで居なかつたら、道を踏み外さなかつたと断言し得るだろうか。

「ではないか？」という探りのみや、他誌の余波を以つて有害と断ぜられては、奇譚クラブ愛読者として誠に迷惑である。私は当局某氏の発表された事に対し反バクするものではないが、内心の燃え上る炎を、奇クに依つて、社会的に何等の無理なく発散せしめていく善良なる、一愛読者として、全面的には首肯致し兼ねるものである。

(東京T・K生)

風流カメラ談義

塚 本 鉄 三

手紙だけから受けるイメージ、或は文通によつて描いていた夢が一度逢つてしまつたら、無惨にも打ちくだかれてしまふ事はよくあるものです。私が彼女に初めて逢つた時もそうでした。

駅前の喫茶店で、アイスクリームを食べながら、もう早く切り上げて帰つてしまいたいという気持ちでいつぱいでした。白粉のない健康そうな頬は、むしろ色白でさえあつたのですが、眉毛のあたりのムダ毛というか、生毛というか、化粧上手な都会娘を見慣れている私には、その野暮つたい田舎じみたワンピースと共に、実質以上に評価してしまつていたのです。

これじゃ、時間とフィルムの損だと思いましたが、一応詳しい事を尋ねてみようと思ひました。その、どう

でもいゝ、といった心の余裕が、私に對して、この大人しい娘をからかつてみたいという野心を起させました。「それで、貴女はヌードになつて写真を撮つていゝと云われるのですね」

彼女は世にも恥しいといった風情で心もち、顔を染め、やゝ暫くうつむいたまゝでいましたが、思い決したように「えゝ」と小さく答えるのでした。

ヌードになつてもいゝ、縛られてもいゝ、そして写真もOK、私はこの田舎の純真な娘に、嗜虐的な興味がむくむくと湧いてきました。お座なりじやなしに、そして気兼ねなしに、真剣に縛りの稽古台（失礼）として協力して貰えるような氣になりました。

一回、二回、やつと四五回目になつて、この無口な乙女が語つた所による

【短 信 往 来】

○暫く故郷の静岡へ帰つておられた二俣志津子さんから便りあり、近い中帰京するので、今度はサデイスチックな女の立場から描いた佳品を送るとのこと。同女の目下連載中の「悪の部屋」は六月号にて完結するので、若し間に合えば七月号より掲載の手筈。

○本誌七周年記念懸賞応募作品一席入選の細川美也子さんから「若し私のようなものでも、お役に立つようでしたら、私自身はカメラの前でもモデルになつてもよろしいが……」の御申出を受く。これも若し、果すことが出来るなら、同女の作品を誌上に発表すると同時に悦慶のポーズも掲載出来るかもしれない。

○同じく二席入選の飛田良二氏は、入選作「私のモデル」の後日譚を物しよ。

と、モデルになりたかつたので、縛られたいなんて嘘の手紙を出した。モデルになりたいのも、本当はアルバイトで金がほしかったのが本音。でも、

うと大張切りとの由、尚、挿繪のアイデアとしては、同氏執筆の細密画が同封されているという用意周到ぶり、六月号には、洗練された近代的な雰囲気、挿繪を擁して堂々誌上を飾る。

○責めのアイデアを初めとして、編集企画に對する御進言は、本誌の編集に對して、大きな推進力となつてゐる有るべき所に有るのが本音だといふので大拍奔放なものが多いが、これはそれとして結構であつて、編集部に於いては適當にアレンジして、使用することにしてゐる。

○或る愛読者から——三月号の発表は残念な事でした。当山形市では一冊も押収されなかつたようですが、県北の酒田市では七冊、市署に押収されたと当市の新聞は報じておりました。こんな事にくじけずに一層の敢闘を期待して居ります。——と

今はモデルになりたいというのも、縛られたい、というのもも本音だなんて。どちらがセスチュア、本心か、乙女の心は男の私にはわからない。

秘薬としての曼陀羅華

(一度実際に試みて下さい)

神戸葺合 H O 生



近頃中枢興奮剤たるアトロピン、エフェドリン等が広く一般に用いられたつとあると聞きおよびます。しかしこれら劇薬の連用誤用による副作用はまことに苦悶を絶するもので、まさに地獄繪図そのものであり、かの麻薬中毒者のそれに勝るとも劣らぬものなることはあまり知られていないようです。

以下私の九年に亘る体験から、氣につくまを列記してこの天来の秘薬の妙を皆様を知つて頂きたいと思ひます。朝鮮朝顔(まんだらげ)とは茄子のような草木で真夏の炎天下の路傍の空

地等に咲いていて朝顔の如き紫がかった白色の花をつけ、その実はトゲが沢山あります。俗名イガナスビ、トゲナスというのも当を得ています。この葉、実、種子に猛烈な毒があるのです。開花時の葉を摘みとつて陽干しにして貯えておき、時に応じて火にあぶり、手でもみこなし煙草に交ぜて吸います。交ぜる割合は半分々々がよいでしょう。唯、あまりに煙草が少いと火つきが悪く、又反対に多いと効能が少いわけです。

吸う量はキセルに二、三服でよく効

く筈です。始めての方なら少々ケムタイ感じがしますがそこをおし切つてなるべく喉の奥へ入るよう吸うのです。顔が火照つて来たら、それは充分きいた証拠です。試みにこのまんだらげを吸つた後に(光でもピースでもよい)煙草を二服してごらん下さい。これ程も美味くなるものかと思われる程です。それはまんだらげの中にあつたアトロピン、ヒヨスチアミン等のアルカロイドによつて気管をとりまく毛細血管が収縮し、煙草の煙が肺のすみずみまで行き亘るからです。そして、かくの如くまんだらげの後に普通の煙草を吸うことはまんだらげのきき目も永続させる働きがあるようで、私など煙草を吸う前には必ず、マドロスパイプにつめたこの朝鮮朝顔を吸う程です。(家の中ではキセルで吸い、家の外ではパイプで吸っています)

このように葉を使用する場合は、冒頭に記したような危険はないようです。本にはこのまんだらげの未熟の実を焼いて食べて氣が違つた人があるから「きちがいなすび」とも云うと書いて

ありますが、煙草にして使用する場合には、葉のきき目が即時的なので直ぐ顔や頭がカーツとなつて来て、余分に吸えといつても吸えません。又、煙草の出来ない人ならこの種子を用いるのは如何でしょう。トゲのある果の中の黒い種子を空腹時なら一、二粒、慣れたら四、五粒そのまま茶でもものんで下さい。靈験のあらたかなるのに一驚されるでしょう。(のんで数分からずして効いてくる)

前に書きました様に私は九年余も毎日欠かさずと云つてよい程使用しています。健忘症になるとか、早老性痴呆になるとか何とか、そんな心配は全然ありません。御安心の上、一度お試し下さい。今年の夏にはさぞかし朝鮮朝顔が枯渇することでしょう。古人がこの草を曼陀羅華と呼んだのもさもありなんとうなずかれるにちがいありません。(まんだらげとは極楽の花園に咲く花の意)又、この朝鮮朝顔の実のグロテスクなのも面白い処です。未熟の棘が少しかたくなりかけのものを、枝付のまま取つて来て後は適当に御想像

の程を。

猶、皆様方の実際の御使用上の注意までに、風呂やお酒の前後は量を減らすか、避けられた方がいいでしょう。以上のように葉や種子を用いたのなら恐らく何ともない筈だと思いますが、若しアトロピン等の注射連用によつて心臓の具合が怪しくなつたり、頭の

伊呂波仁抄 補遺



四月号

(五四頁下段九行目) 私の股(同一〇行目) 指は私の乳房(同一五行目) 女の門に(五八頁上段六行目) 夫や私の分泌物(五九頁上段三行目) 分泌物で(六一頁上段一〇行目) 股の間(同一行目) 亡夫の分泌物が染み、股間の(同下段九行目) 股の間の(同一五行目) 分泌物に汚れたレインコート(九四頁上段一〇行目) エレクトした男性の象徴が毛布を持ち上げて(同中段八

火照りがとれないような場合は、多量の食塩水や番茶等を飲んで安静にし、二、三日は使用を中断することです。勿論注射の方が直接的で効果の大なることは言をまちませんが、私はそのような危険を防ぐ意味から、成るべくこの方をおすすめします。もつとくわしい事を知りたい方は編集部気付でお問

行目) 私の床に(同一七行目) 同衾出来ない(九六頁上段一一行目) エレクト(同一二行目) 性交(同中段二五行目) 股間の附近(九九頁下段二七行目) 開いた(同一八行目) 局部(同一九行目) 私の目の前にこんも(同一〇行目) ヴィナスの(二〇〇頁上段四行目) 大切な所に、そこに舌をあてると(下段一行目) 舐めや(同一行目) 毛を除(同一〇四頁下段一九行目) 男の口(同一〇行目) の口に吸、裸(同一二行目) 私が裸にされた(同一二行目) ならし(同一三行目) ぐつたりし(二〇五頁上段八行目) 女を満足させ(同九行目) で寝て(二〇七頁上段三行目) 呻きが(同中段七行目) 法悦を

合せ下されば私の知る限りのことをお知らせします。

私のおすすめしたい用法

一、一時的にでも是非精力を盛んにしたい時。

二、毎朝、目覚めの床の中で煙草をのむ直前。

三、毎夜……………。

夢に(同八行目) ままの姿(二二八頁上段五行目) 仰臥して両足を擴げて(一八七頁上段一一行目) 堪らないんだ。なえ(同下段二五行目) 肉体的な關係を(二〇二頁下段三三行目) 觸らして(二〇六頁中段五行目) 富士枝が八文字に股を開いて真白な太腿からその付根までまる見えになつていた。鵝色の腰巻で尻の丸みは一文字に遮られているが下腹部はかなり上まで見えている(同一三行目) 手を引かれて上るや、彼女の立ち上らないうちに素早く振り放した両手を伸ばして彼女の腰へ廻してぐつと抱え込むようにした。(以下略)

四、アフ、プレイで一息つけるとき(好適)

五、煙責めに、この朝鮮朝顔の葉を混用して用いると被害者に興奮を起させて絶妙。

六、喘息持ちの方やセキの止まらない方等の薬用として。

三月号抵触個所詳報

(本文)

(一) 謎の女と私 岡田咲子作

一二三頁上段七行目より下段八行目迄。

(二) 魔性の姉妹 真木不二天作

一四八頁上段九行目より下段七行目迄。

(三) 星は濡れている 亀岡紘七郎作

一七九頁下段十行目より一八〇頁上段二行目迄。

(四) 我が少年時代の犯罪 岸本幸雄

作一八四頁上段五行目より中段八行目迄。

雑報いろいろ

○六月号には辻村隆氏が「緊縛の構成と責めのアイディア」という題名で今迄投じられた読者からの「責めのアイディア」に対して解答を与えられると共に、相当突込んだ縛り写真撮影の秘話を公開される筈。

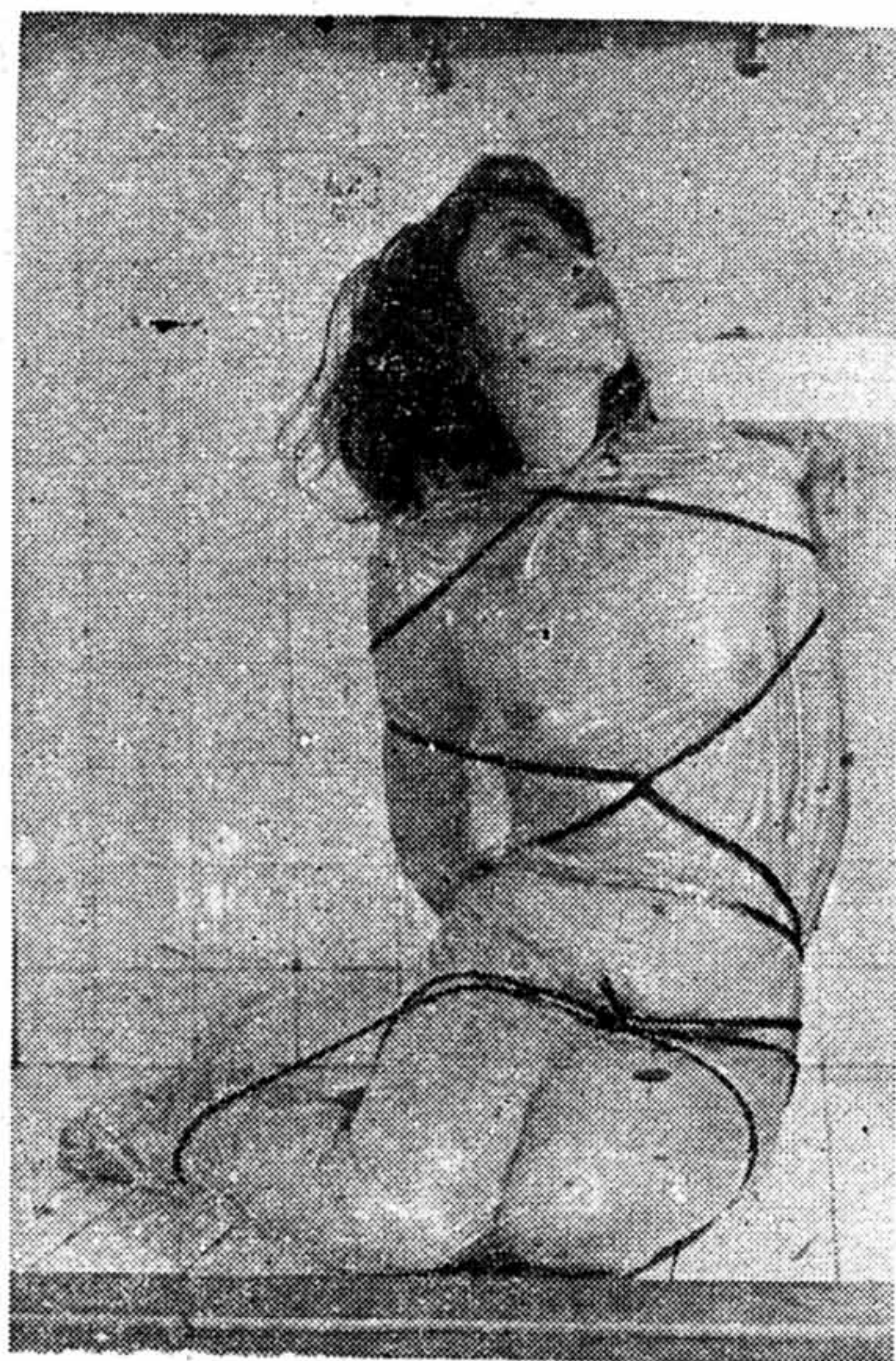
○それと関連して、愈々撮映の好シーンを迎えて、辻村隆氏の豊富なアイ

ディアを基に新しい企画を樹立、多彩なモデル陣を使用して、懸案のものを一処に強行せんと張切つています。読者の方々の中で、こんなものを撮つてみては、という案を御持ちの方はどしどし御進言下さいとの事。

○縛り写真撮影の結果、口絵掲載に不適當なものは、アルバム第三集或は分譲写真の方へ廻す由。

○長谷川洋氏から、面白俱樂部本年の

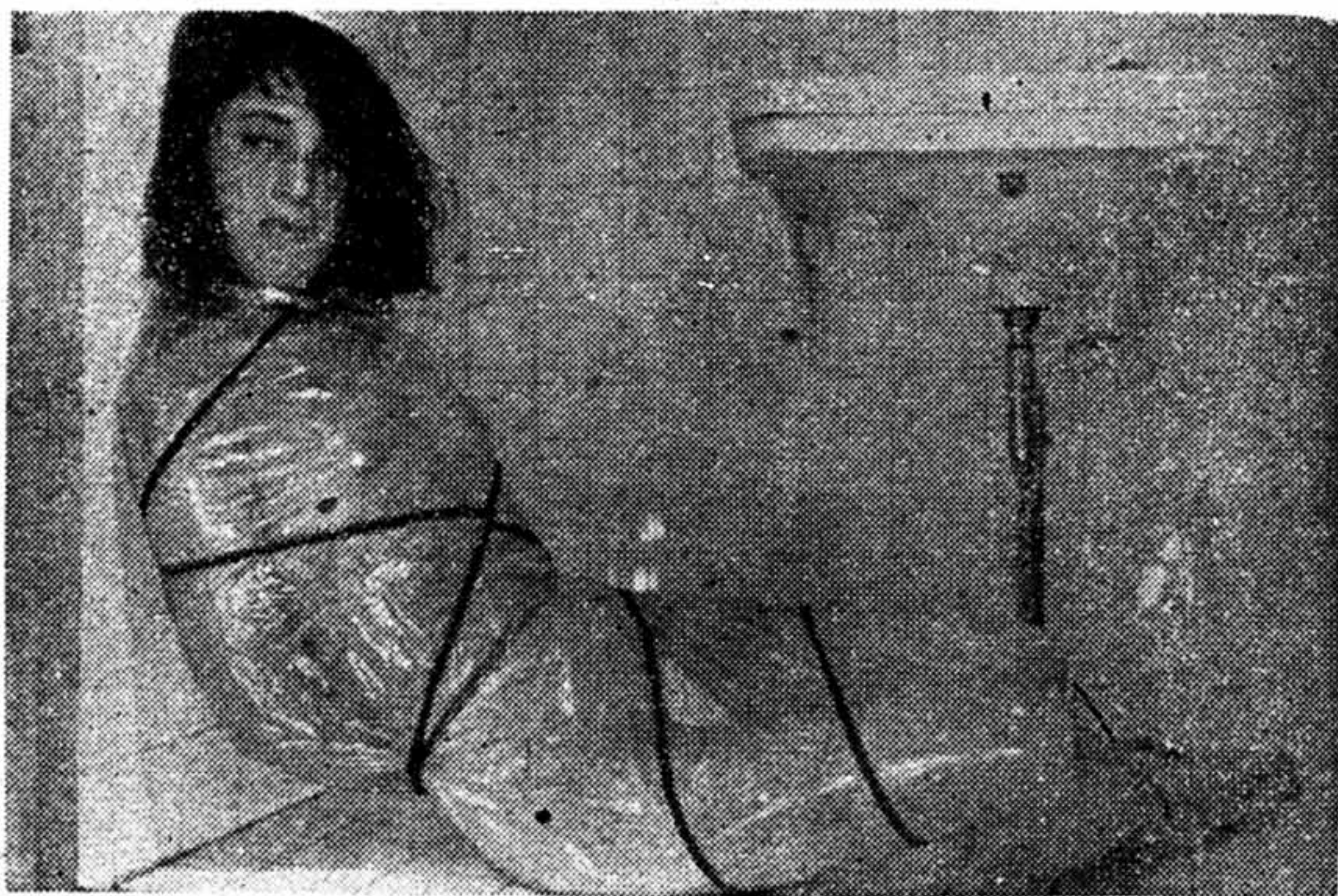
新年号二一六頁から二三〇頁に村上元二氏作の「菊花軍談」という題の男色をテーマとした時代小説が掲載されているから奇ク読者の同好者に知らせてくれと通知があつた。同氏



ナイロンに包まれた女体 (一)
(分譲写真キヤビネ三枚一組) (二)

の言では純然たるソドミ小説との事。

○大阪市北区堂島の有村良樹



という人から、浣腸の体験について図解入りの詳細の通信を得たが、公開出来ないのが残念、又、名古屋市某女

性(実名記入)から、臍に対する貴重なる性体験を得たが、こういった性質のものは、伏字すれば全然意味が通じ

なので惜しいが仕方がない。
○懸賞告白の応募原稿が続々来ていますが、立花育子さん



中態の三責め
女体包れたにロンナイ

(一)
(三)

の「畜生道」という原稿は、流石この様な軟い内容のものに馴れつになつてゐる編集員も、うーんとうならされた程のその方面の力作、街で売つてゐるつまらない春本なんかよ



り、余程刺激的である。それだけアブノーマルマニアの読者には喜ばれるだろうが、目下の如き状況では、活字にすることはむづかしい。

○毎号本誌の巻頭口絵を飾る、伊藤晴雨翁画の責絵十二ヶ月は快心の素晴しき細密画、六月号は「良辨庵の狂女」七月号は「善知鳥安方」(うとうやすかた)共に雄渾なる筆致は、老いて益々健全なる翁の精力的な傑作。御期待

して頂いて失望はしないもの。
○同じく口絵で、毎月絶讃を頂いてゐるアメリカ物の責絵、責写真、更に新しいものを次々と入手しているので、漸次紹介してゆくが、次号六月号では少し毛色の変つたもので、アメリカ某社版の「女同士のレスリング」を御希望によつて発表する。外に白人の縛り写真もいろいろお目に掛ける。

◎KK 会員の方々へ

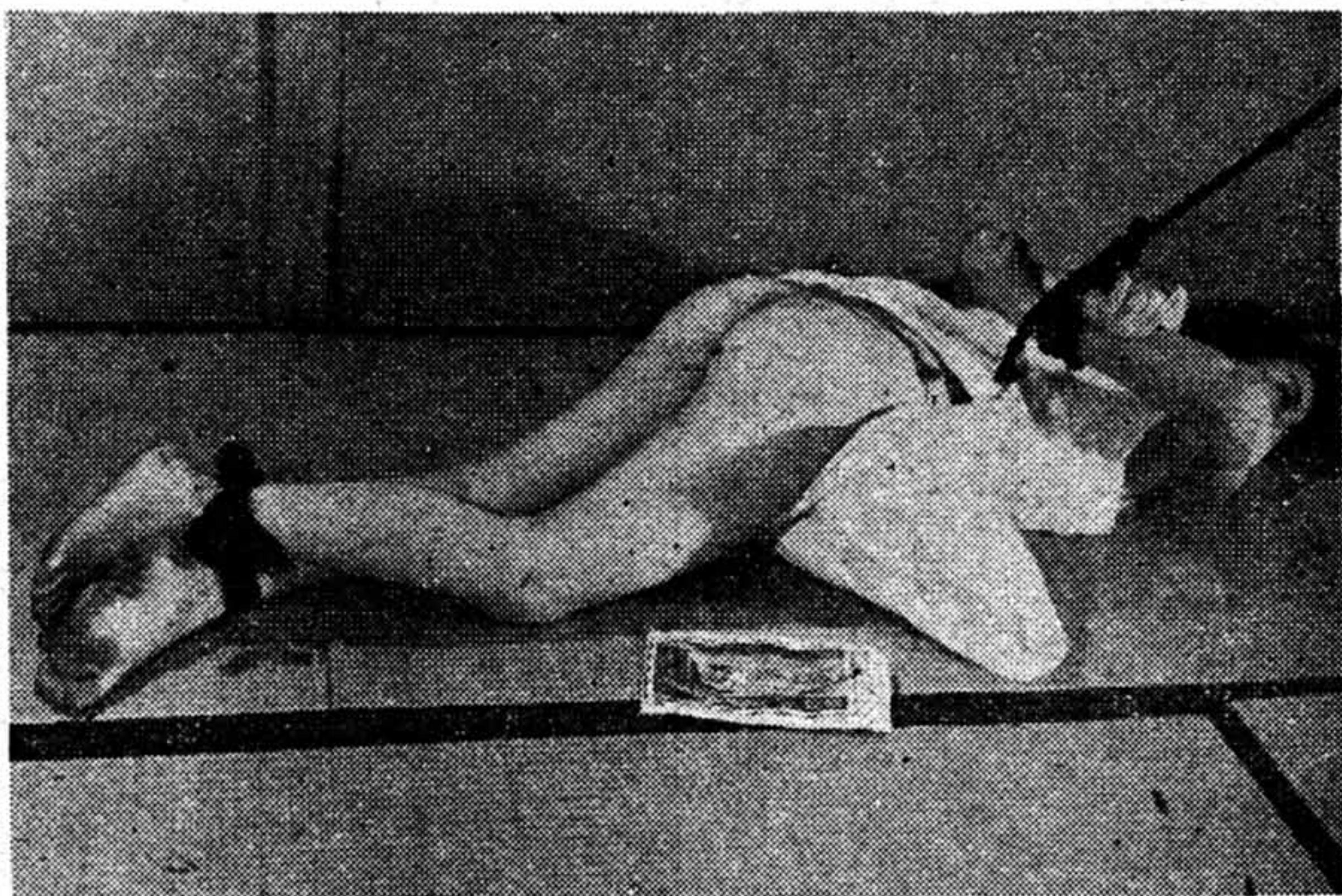
会員の皆様の機関誌としてのKK通信を十二分に活用するため、担当者一同懸命に努力致しておりますが、更に意義あらしめるため、皆様の御進言をお待ちいたします。尚KK通信に掲載する読者論壇、手記、告白、会友通信、編集に対する御意見、責め写真についての批評並にアイデア、本誌の批評等、或はアブノーマル界の情報等について御便り下さるよう御待ちいたします。

◇五月号颯爽として登場

○諸氏待望の縛り方講座、滝麗子女史担当の本月は「棒杭を用いた縛り」絵を描くのはすぐだが、縛り方を考えるのにモデルを使つて頭痛鉢巻とは楽屋裏はなし、まだまだ材料は豊富とは、楽しみだ。

○口絵写真には愈々新モデル嬢登場、今後は毎月、新モデル嬢が必ず登場するそう、これも楽しみの一つ。

○外国の縛り写真では、白人少女の緊縛のポーズが異彩を放っている。



○初めて試みた切腹の口絵「女性切腹幻想四態」はアブノーマル絵画として断然新機軸を誇るもの

灸責め

三態の中

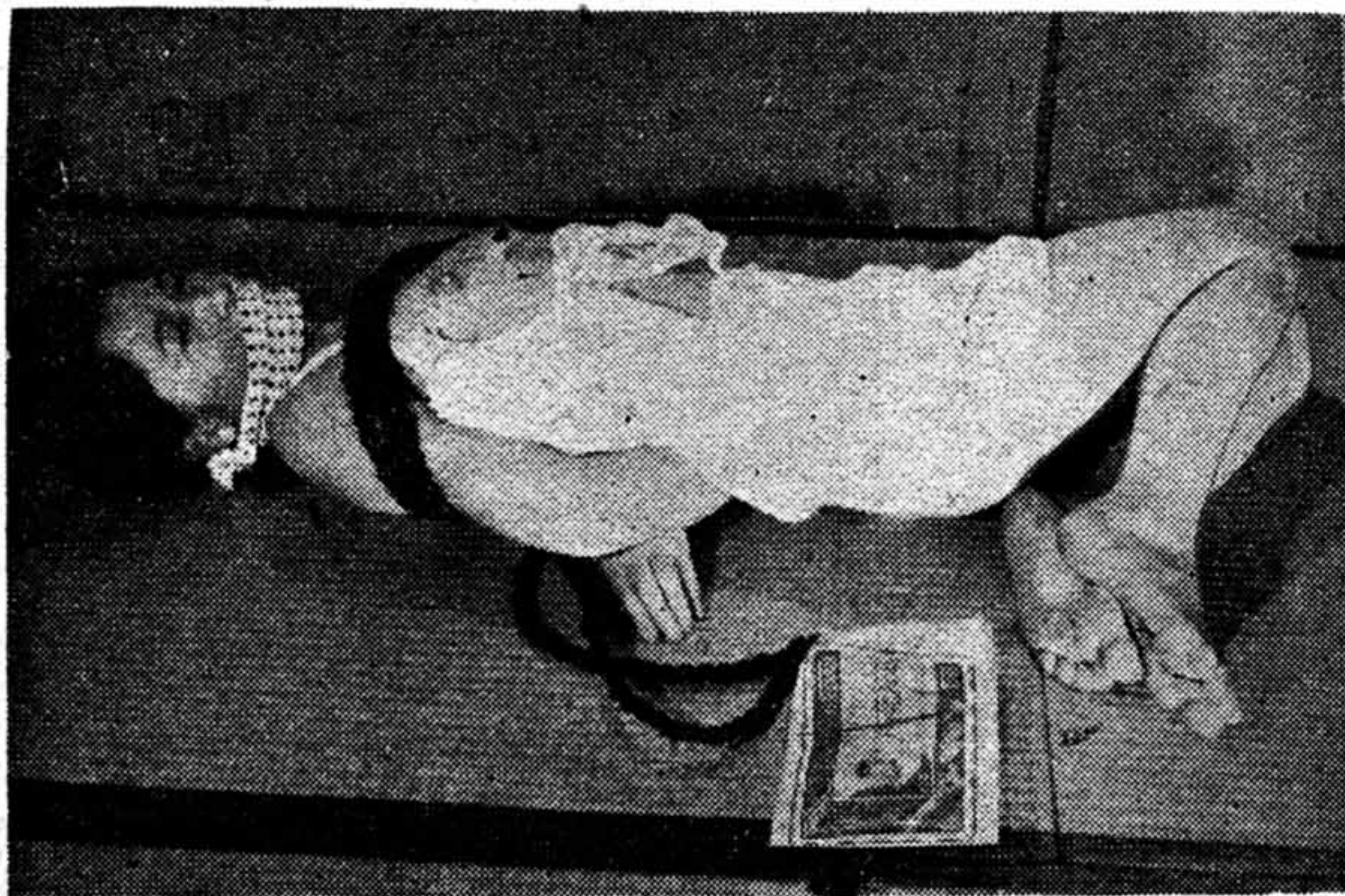
(二)

灸責め

三態の中

(二)

○マゾヒスティクな頁では、本誌獨特の「人間馬」がマゾヒスト諸氏の心臓をぐつと掴んで放さない事だろう。



読者案内欄

◎規 定◎

一、本欄に記載の案内に対し、通信御希望の方は、一件につき切手三十円同封の上、御申込下されば転送致します。一、本欄は本誌五月号に掲載予定のものをも都合によりKK通信に掲載いたしました。尚、五月号に発表の理由により、当分読者案内欄は廃止いたします。故、御諒承願います。

○奇々二七年七月号(落丁不可)原稿にてお譲り下さい、着本直に御送金致升、当家蔵故、万事御配慮願度。
(東京・386生)

○誰れにも云えない事を暖く理解し合ひ共に嗜愛芸術を鑑賞出来るような、優しい女性と文通交際を希っています。小生三八才獨身教師 (大阪藤川生)

○僕は三才のソドミア、同年配の方との文通を御待ち致します。真面目な方でないため。返信は必ず致します。

腹蔵のない所を御送り下さい。

(和歌山S、O)

○小生三童貞初心な青年を指導して下さる中年の理解ある女性と文通希望。私は女性的青年。女性下着、又肥満婦人の臀部崇拜者。変態好の女性、年増女に仕え、文通希望。待返事(HM)

○僕は三重に住む美容師、十九才のマゾヒストです。名古屋方面で二五才迄の婦人と交際したい。僕は女主人の奴隷として奉仕したいと願うマゾです。○僕を教育して下さい女主人には如何なる犠牲を払つてもいいと思います。またアリスの教師のような女主人を望みます。早くお便り下さい。お待ちしております。居ります。(KH生)

○小生三〇才の青年、女性から徹底的に責められ度し是非御一報下さい
(東京M生)

○子供の性的な遊びに興味を持つて居ります。経験でも見聞でも資料でもけつこうですから具体的にお教え下さいお待ちしております。(MT)

○女性の皆様私を貴女の家来として召使つて下さい。五三才五尺六寸の風采よき大学出の男です。生活の安定も出来、何の用もなく遊んでいますから何時如何なる場所にも御伺いして御命令のまゝどのような仕事にも服従し御奉仕することが出来ます。どうか給金いらすの下僕を雇い入れたと思つて御使下さい。時と場所を指定して下さい。

ば御偏い致します。ためしに一度御引見のほどを
(東京SM)

○二四才の青年で美少年愛好者、十四五才の少年の責絵、サド小説の交換希望、又年輩の方の奴隷とし玩弄もされたい、同好の方は当欄か、又は当駅北口掲示板に通知乙う。毎土曜日
(神奈川県藤沢市吉野生)

【代理部便り】

○四月号迄で一応、従来の分譲品は一括、五月号の表紙ウラに纏めて広告、新版は目次裏一頁に発表しました。

○一昨年六月号から発売しました女体悦虐写真集は、第十巻迄、百集分にて打ち切りました。

○但し、本誌昨年九月号、十一月号の口絵のサンプルによつて、御希望の集がありましたら、御申越次第焼増しいたします。

○旧版に対する説明は、本誌の旧号をらん下さい。本誌並にKK通信に未

紹介のものは漸次紹介いたします。

○アルバム「美しき縛しめ」の第一集の御申込みが殺到、残部僅少となりましたので、目下若干増刷中です。第一集も売切れぬうち、未入手の方は是非お求め下さい。

○只今、アルバム、第三集企画中でありますので、皆様の御希望によつて装幀や構成、姿態を決定してゆきたいと思ひます。どうか、御意見お知らせ下さるよう願ひます。

○吾妻新訳、被虐の家(クリスチーナの受難全訳)も分譲中止にならない今の中にお求め下さい。

ボクの責め方

(十一)

宝塚二三夫



つた女。そして濃い水色のユニホーム、それが

(L) 英子 (今はハウスメイド三十五才)である。粉雪の散る二月の或る夕方その時分は今のOS劇場のない、あの前あたりでピタリと逢つたのがサンパラ髪 (と云つてもハーマだか)

少々古い話になるが二月の話で思い出したまま。これは、米英戦の初まる一、二年前の話である。大阪駅東、Hデパートの東側某喫茶からこの話は擴がつて行く。例によくダラダラ描写は抜いてそのものズバリと話して行く。

ボクが毎夕十三の工場がえりにそこでコーヒを飲む内に、一段と高いレコード放送台に上るムツツリした中に特長あるうるんだ眸の子、そして、その時分はスカートも大分短かいので耐らぬ、ボク好みの脚脛がよく見えるのに、とも角ボクは魅きつけられてしま

ペット」と彼女にも自認さし「お兄様のペットよとしてすみません、バツ受けます」とまで云うように仕込んでゆく。そして心ブラのP喫茶店の二階の午前中の客のないサロンで、彼女はイスの背中に両手を廻してじつと縛られた恰好をしているのを、横から査下をすらして腓脛のハリ切つた肉をブチリツとひねつたり、掴んだりさしている娘。勿論、誰でも同じ茶色のおーバーで跣足になつて立つていてくれる。そして高手小手に縛り上げられる事も亦至極淡々としている。

「お兄様、気がすんだ……」

と云う位に落着いているこの英子、そしてこの喫茶室で拾つたのが、何と多美である。勿論英子の紹介で一日、宝塚の坐席券を手に入れてやつた(やはり入手難時代)事から急速に親しくなり、彼女の勤務が有名なOKR海上保険であり、その重役の二号的事務員である事も知れ、ボクを「お兄様」と呼ぶのも英子をマネてか……

「お兄様、自分の会社の重役にお世話になるものじゃ絶対にないですよ。給

料は会社持、遊びは会社持、お小遣は交際費ですもの」

ボクの方へ乗換えようかとの思わせぶりらしいが、女に不自由せぬボクは余り気乗りはせぬが、絆筋の白系美人とあつては、と云う結果になつたわけさてさて一責めと責めてみると、ここな令嬢タイプの見栄坊さん、案外もろくも紐を打たれるとガラリと調子落して立膝で着物の裾を割つてみせ、前の照子同様、ひとかわ目の目尻を少し上げて片唇をキツト噛みしめる醜姿よろしく

「お兄様の得心ゆくまで、責めて頂戴、どうせ生娘では通れないんですもの……」

「重役さんこの手てたか？」

「冗談いわんとして、妾、お兄様に本気でなんですよ、だからこんな姿でも……他にこんなみじめな恰好見せますかいな、ホントですよ」

又々話は横道へ、

オーバー、跣足、紐目の内、一番美しかつたのは君江の食堂のガラス戸の外、二坪たらずのコンクリート風防扉

にかこまれた砂利場に、二月節分の朝ボクが朝のコーヒーと共に待つ人、照子がいづれにも似合わぬ大遅刻で、真紅のオーバーのまま砂利も凍りつく様な冷たさに、はだしにして立たされた姿であつた。

別室とは云え、すでに十時過でもあり、本紐かけるわけにもゆかず

「お手々は？」

と云う君江の声に「ハイ」と答えた照子、素直に両手を背中に手首を組合わすのを見た君江、小さいハンカチーフをクルクルとねじつて紐にすると、

ガチャーンとスチールシャシーのガラス扉を開けてジャリジャリと砂をふみしめて照子のそばに行くと、事務的に全く事務的に照子のはだしの爪先を引寄せて左右の指ゆびを結び合す。ここに自然な姿の責めは完成したわけである。この照子の姿、そして前述で繰返した白魚の照子の脚、脛、腓、足、踵、指、爪先の姿はボクに久遠の責美として脳裏に刻まれたわけである。

女の一番美しい時、衣装も肌も——それはやはり五月下旬から六月中旬ま

で、オーバーをぬぎ、年配娘なら七分そで、小娘なら半袖、ノーストツキンクになつた肌生地は、冬ごもりからで日やけもなく、毛穴からもまだ肌毛は延びて居ず、もう七月にもなると肌はひやけが出る、服装は乱れて来る。からだの線は極端に表現されて来る。女の毛ずねも太い足首とまで来るともう全滅である。ボクが秘書松本に八月の盛夏まで、それも紺色のズボンをはかして通わしているのはバレー娘やレヴューガール気取りではない。脚の日焼を防ぐため他の女達は一応は「ハイハイ」と返事はするが中々云う事は聞かない、否聞きにくいのである。その点惚れ合つて四、五年もなると、松本の服装サービスは堅いものだ。

然しボクのこのコスチュームと跣足責めこの頃のように全般的に女性の足許が美しくなつて来ると益々楽しさが増してやめられない事になつた。

案外平凡で下らぬものに海水浴場とストリップショーがある。片方はドタドタドテと集団の不味さ、片やライト当ててさああの肌と肉体では、も

う沢山でござりまする、と云うわけ、ボクは案外平凡な世俗の内に色々の事態と特異な情況による責の美を味う事が心身ともに最も楽しいのである。例えば、前述照子の場合も一例であるがいずれにしても七、八月になるともういけません、一流芸妓でさえも……文章や映画になると上手に描写するからよろしいが生肌を手につけてはさて……、でこの話は生肌の美しいシーズン、半袖、よれよれになつた化粧のワンプイス、日やけの腕に種トウの痕、汗と垢じみたブヨブヨのカツケ性の脚に脛毛は延び、梅雨の泥しぶきを受けたキビスのあたり、搦めようがうたわそうが、汗臭いパーマ、……ここらあたりは、完全変態さんに御一任申上候

(未完)

△ボクの責め方、はノートの両面にぎつちり書かれて百数十枚、原稿用紙にして二百枚以上の代物、今後は面白そうな個所をビツクアツプして提供する故、御諒承を乞う。

【編集部便り】

○五月号の口絵で、畔序数久画の「通り魔」三頁の三枚目は、女二人の中一人は全裸で叢に倒れ、一人は首紐を掛けられて、今まさにグロースを脱がされようとしている緊迫場面であつたのを、アン・ハッピーはいけないというので、書き直した上所載のような絵になつてしまつた。最初の力作を見た者の眼には、どうもピンとこないのでは中途半端な気がするのだが、強姦暗示の場面というので遠慮をして特に書き直して貰つた。読者にはお気の毒だが御諒解を乞うておく。

○数社の四月号の中、抵触したものがあつたと聞いた。その名の中に、アブノーマル専門でないものゝ方が多く見受けられたが、当局はやはりアブノーマルだけを目的にしているのではないらしい。健全なるアブノーマル研究誌は必ず残るということを感じてマニア諸氏は御安心願いたい。

○せん情競争で行き過ぎを来たせば、当局の取締りも、必ず神経質になつて

行き過ぎになるのが当然である。それをとやく云う先に、自ら墓穴を掘つた責任を取るのが本当だろう。

○今回の一斉摘発で本誌四月号も巻き添えを喰つたという報道があつたとかで各地の読者諸氏から御見舞や御問合せを頂いた。一部の方々には直接御返事申し上げたが、他の方々へは此の欄をかりて御礼並に御返事を申し上げます。本誌四月号は健在です。

○或る熱心な方々から、まことに勇ましく激励の御言葉も賜つたが、私達は法律を無視して迄発行するという意志は毛頭なく法治国の善良なる人民として許された範囲内に於いて最大限の効果を挙げ、皆様の御期待にそうべく努力する覚悟であることをお断りしておく。

○三月号の抵触箇所の中「星は濡れている」の一七九頁二段の一四行目より一八〇頁の上段二行目迄の「靖は荒々しく其の手を振り払い、彼女の下腹に顔を押し当てた。火のように熱い額を感じ彼女は切なく腹を揺つた。快い戦慄に似た震えが下腹に渦巻き、彼女は

無意識に靖の髪を撫でた」という箇所など、何かクニリングスの場面でも想像したらしく、馬鹿らしき限りではあるが、そういう所迄気を廻さなければいけない事態にした者にも責任の一端があると、更に白肅の資に供したい。

○同じく「我が少年時代の犯罪」の一八五頁上段五行目から中段八行目迄の「内股の肉を張り廻した」という箇所が、あたかも陰部に対する弄戯のように解釋したのは驚いたが、これも激務中の短時間に決定することであるから、やむを得ない事と思う。今後は、そういった誤解され易き表現や描写には十分注意し、以て徒らに萎縮することなきよう期したい。

○本誌五月号は御覧の通りの充実ぶりで、月例通り一日の遅延もなく発売の運びとなつた。これも偏見に読者諸氏の御支持の賜で、この受難期にこそ奇

クの真価を発揮して、他社の如く合併号を出したり、休刊したりすることなく、確実なる発行を続けることをもつて御期待に応えたい。

○五月号に引続いて、六月号には「告白と手記と体験」の特集号として、読者から寄せられた生々しき作品を集録することになった。

○「俣志津子さんの「悪の部屋」が次号で完結するので、引続いて読切のアブノーマル小説「魔觸」を寄せられたこれは例の通り、大変危険な描写がふんだんにあるので、婉曲な書き方に改めて貰つていたので、何れ誌上にデビューする筈である。

○新聞の報道というものはデタラメなものであるという事は常々感じていたが、誤報をデカデカと書き立てて、人として恥じない商売新聞が多いから新聞記事は頭から信用出来ない。

K K 通 信
第 19 号

昭和廿九年四月一日発行 (毎月一回一日発行)
発行人 吉田 稔 編集人 箕田 京二
発行所 大阪府堺区区内菅原通四ノ三〇 曙書房
定価 二十円 (振替口座大阪三四九五六番)